

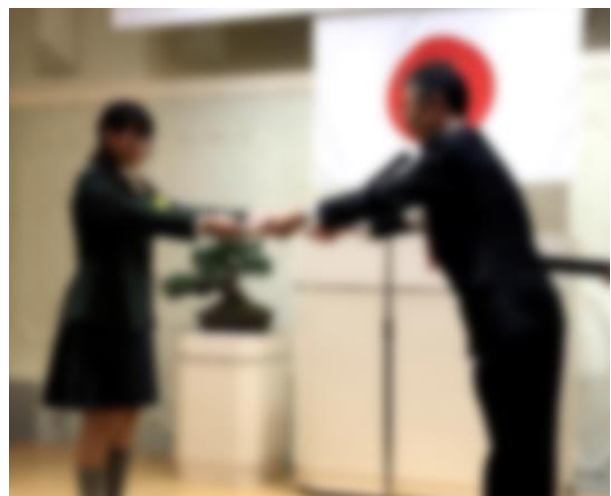
「税についての作文」で受賞しました

全国納税貯蓄組合連合会及び国税庁が実施している中学生の「税についての作文」で、本校中学3年の生徒2名がそれぞれ、「川崎北税務署長賞」と「川崎北納税貯蓄組合総連合会 優秀賞」を受賞しました。

「川崎北税務署長賞」を受賞した生徒は、12月17日に一日税務署長を務めることになっています。

「税についての作文」募集事業は、将来を担う中学生が、作文を書くことを通じて税について考え、正しく理解することが目的となっています。

以下に、受賞した生徒の作文の一部をご紹介します。



税務署長賞 表彰式にて

「税金の使い道」(川崎北税務署長賞受賞作品)

……フィンランドでは、国民が自分の納める税金に高い関心を持ち、支払った税金が自分たちのために返ってくるということをよく理解しているようだ。ゆえに税金を納めるということは貯金をしている感覚に近い。私たちは税金がどのような形で返ってきているかを正確に把握していないため、高い税金を払っているという感覚をもってしまうのかもしれない。まず、色々な種類がある税が、それぞれ何に使われているのかを知ることが、税に関心を持つ第一歩かもしれない。……

「税をマイナスにとらえている人々」(川崎北納税貯蓄組合総連合会優秀賞受賞作品)

「家計的には痛いですねえ」消費税の割合が高くなる度に連日、テレビでは嘆いている日本中の主婦が映し出される。その嘆きが主婦たちの本心なのかは知る訳もないが、私はテレビに映し出される税へのマイナスな意見にいつも違和感をいだいてしまう。……自分も含め、今の日本人はあまりにも自分の幸せに気づいていない。そして、きっとそれが税に対するマイナスな意見につながっているのだと思う。…

…